

思いついた全てのアイデアを集積・管理・公開する Wiki 型 CMS 『Ubiki』 の開発

Ubiki Project

栗川 洋平

KURIKAWA Yohei

kurikawa@pop.707.to

† 電気通信大学 電気通信学研究科 人間コミュニケーション学専攻 修士 1 年

概要

人は何かアイデアを思いつく。そういったアイデアの大半はすぐに忘れてしまう。人はそういったアイデアをメモをとることで残し、そのメモを無くさないように管理し、後で活用しようと整理する。そして来るべき日のために秘匿する。私が問題とするのは、メモを「とる」「管理する」「整理する」「秘匿する」部分である。既存のツールはどれも一長一短であり、「短」の部分を人間が努力で補う必要がある。しかし、怠惰な人間はこの努力が出来ず、メモツールを使いこなせない。従って、複数のツールの利点を組み合わせることで、怠惰な人間にも使用可能なメモツールである Wiki 型 CMS 『Ubiki』 の開発を提案した。

1. アイディアは人知れず失われていく

人は何かアイデアを思いつく。そういったアイデアの大半はすぐに忘れてしまう。人はそういったアイデアをメモをとることで残し、そのメモを無くさないように管理し、後で活用しようと整理する。そして来るべき日のために秘匿する。

私が問題とするのは、メモを「とる」「管理・整理する」「秘匿する」部分である。

1.1. メモをとる

人がアイデアをメモするか・しないかの境は、思いついたときの本人の価値観およびメモ環境に依存する。「アイデアの価値 大なり メモに必要なコスト」であれば迷わずメモをとるだろうが、その逆であればメモをとらないだろう。手帳もペンも無いときに「これはノーベル賞級のアイデアだ!!」と思えば、コンビニに走って紙とペンを買ってでも書くだろうが、「うーん、微妙」と思えばメモすることはあきらめるだろう。しかし、ア

アイデアの正しい価値は誰にも判断できない。その価値は時代、環境によって変化するからである。メモをあきらめた思いつきが「10 年早すぎたアイデア」「自分にはさほど重要でないが」「日本じゃ無理だけど〇〇なら可能なアイデア」かもしれないのだ。

アイデアはとにかく数である。思いついたときの価値観に依存せずとにかく数を収集したい。そのためには「メモに必要なコスト」をいかに小さくするか、ということが重要である。また、アイデアを思いつく場所は限定されていないのでいつでもどこでも使えることがメモツールとしての最低条件である。

これを満たしたメモツールにノート、手帳があるのだが、物理メディアはデジタルメディアに比べ管理コストが高い。私はよく手帳を紛失する。また、ノート・手帳そのものがなければ内容の閲覧が出来ない。過去のノートを全て持ち運ぶことは不可能である。

いつでもどこでも低コスト(手間、時間、金)で書き込み・参照ができて、データを紛失しないメモツールが必要とされている。

1.2. メモを管理・整理する

アイデアは全てが独立しているわけではない。類似したアイデアを複数思いつくであろうし、方向性が近いアイデアもあるだろう。そういったアイデアがバラバラに並んでいるだけでは価値が低い。類似したアイデア・方向性が近いアイデアをまとめて、それらについて考えて初めて価値が発生する。

紙は情報の記述には向いているが、情報の管理にはあまり向かないメディアである。物理的な管理コストの問題もあるし、データの検索、再利用がしづらい。コピー & ペーストが出来ないのがつらい。

アイデアの管理はデジタルデータの方が都合がよい。紙は時系列でしか情報を保存できないのに対して、デジタルデータは複数のメタ情報ごとに整理、検索が可能なので、柔軟な管理、保存が可能である。

収集した複数のアイデアを整理しながらまとめて、一つの文書が作成できるユーザーインターフェースをもったアプリケーションが求められている。

1.3. メモを秘匿する

ほとんどのアイデアはそれだけで意味をなさない。その中の1%程度は素晴らしいアイデアであるが、大抵は既出である。実際のところ本当のオリジナリティーを持ったものは0.1%未満だろう。だが、アイデアなんてそんなものだ。

だが、駄目なアイデアでもとにかく積み重ねて、組み合わせることでその中からオリジナリティーが生まれてくるモノである。従って重要なのはとにかくたくさんアイデアを出すことである。そしてそこからどう発展させていくかだ。

しかし、多くのアイデアは

「素晴らしいアイデアだから人には教えない」という勘違いと

「こんな馬鹿なアイデアは人には見せられない」という羞恥心から公開されることなく、個人のメモツールに死蔵されることとなる。実にもったいない話だ。

1.4. 怠惰な私は、紙を使いこなせなかった

こうした「アイデアの管理」は今まで、紙のノートを使って行われてきた。しかし、紙を使いこなせるのは勤勉な人のみであると私は考える。正直、私は手で字を

書くのが嫌いであるし、だらしが無いのでメモはすぐにどこかに行ってしまう。

まじめな人は「習慣にすれば大丈夫だよ」と私に言うのだが、怠惰でだらしのない私にしてみれば、そんな手間暇のかかる運用は無理である。すぐに飽きてやらなくなる。

どこでも、手軽に、簡単に使える、思いついた全てのアイデアを集積・管理・公開するシステムが私には必要だ。

2. UBIKI プロジェクト

本プロジェクトの目的は、思いついた全てのアイデアを集積・管理・公開する Wiki 型 CMS 『UbiKi』の開発である。

『UbiKi』の目標は以下の通りである。

- Web 上で情報の編集・閲覧が出来る
- オフラインの PC から情報の編集・閲覧が出来る
- 携帯電話から情報の編集・閲覧が出来る
- 紙に書いたメモを簡単に入力できる

2.1. 由来

『UbiKi』とは Ubiquitous (遍在する) + idia (アイデア) + ki (記) = 『UbiKi』という私が勝手に作った造語である。(補足 ちゃんとググって、ユニークな名前であることは確認したつもりだったが、どうやら Google の検索対象を日本語限定にしていたようで、海外で既に使われているネーミングであることが先日発覚した。UbiKi.com も既に取られていた。……新しい名前を考えよう。)

2.2. どこでも、手軽に、簡単に使える Wiki 型 CMS

『UbiKi』において重要だと考えているのは「どこでも使えること」と「設置・運用コストが低い」ことである。

アイデアは突然発生するモノであり、そういったときすぐに使えなければ意味がない。従ってどこでも使えなくてはならない。

『UbiKi』はそれ単体で何かを作るモノではなく、支援するためのものである。極論すれば『無くても良い』ものである。だからこそ低コストで運用・設置できないと誰も使い始めない。

これらの問題を解決するために、『UbiKi』は Wiki 型 CMS という形式を選択する。

現在、個人で複数台の PC を運用することは珍しいことではない。私も 5 台程度の PC を日常的に運用している。そうしたとき Web アプリケーションであれば、オンラインの PC であれば専用アプリケーションをインストールしなくても個体、OS に依存することなくどこからでも作業が出来るようになる。

しかし、Web アプリケーションはオンラインな PC でしか使えない。そこで『Ubiki』はオンラインな PC 意外に 3 つのインターフェースを想定する。『オフラインのノート PC』『紙』『携帯電話のメールシステム』である。

2.3. 紙専用文法

紙の柔軟性、耐久性にまさるメモツールは存在しない。しかし、管理コストが高いのも事実である。従ってメモを PC に簡単に取り込むためのインターフェースを用意する。

紙に書いたアイデアを既存の Wiki に取り込むときに問題になるのが、アイデアを一つ書き込む度にページを切り替えなければならぬということである。ページを切り替える度に遅延が生じるので面倒である。従って「紙」にぐちゃぐちゃと書き込んだ情報を Wiki に取り込むための専用文法を用意する。

2.4. E メールインターフェース

携帯電話は誰もが所持していて、どこからでも Web に接続できる非常に有用なツールである。しかし携帯電話のブラウザ機能は機種依存が激しく、全ての機種で安定して動作するものを作るのは困難である。

ブラウザを使うのではなく、E メール機能を使う E メールでコマンドを送信して、内容の編集、閲覧を可能にするというものである。

2.5. オフラインのノート PC 用インターフェース

最近、ノート PC の低価格化が進み、所有者が非常に多い。しかし、その中でモバイル回線を契約しているのはごく一部だ。個人で使うには回線料が高すぎるのが原因だろう。

従って、オフライン時でもアイデアの書き込み、閲覧が可能なインターフェースを用意する。

